「富士山『桧輝』」をＰＲ

森林認証材委 間伐から加工まで視察

持続可能な森林経営と製材、住宅施工過程まで一体的な流通システムを持つ木材の新ブランド「富士山『桧輝（ひのき）』」。

流通システムを組む工務店などでつくる富士山木造住宅協会・森林認証材委員会は先ごろ、そうした流通経路を確認し、ブランドの特性を理解しようと現地視察イベント「きこりツアー」を行った。

加盟工務店の代表や関係者約30人が参加し、地球環境への貢献を視野に入れた木材の生産から消費の流れに理解を深めた。

同委員会メンバーは県中東部の工務店10社と製材業の富士ひのき加工協同組合、住宅資材販売のマルダイ。

「富士山『桧輝』」は、林業団体などでつくる『緑の循環』認証会議（ＳＧＥＣ）の認証を受けていて、同ブランド木材を一定以上使用した住宅を「森林認証システムの家」と認め、普及を目指している。

認証は、富士宮市北山の日本製紙北山社有林（670㌶）と同所から切り出された富士ヒノキの製材、プレカット工程、住宅建設まで含めた流通・加工・施工経路に与えられている。

木材の生産と消費を一体的に結ぶことで伐採から使用、植林のサイクルを確立し、二酸化炭素削減や治山など環境に配慮した循環型地域社会の構築に役立てる狙いがある。

この日のツアーでは、同社有林での伐採の様子や富士ひのき加工協同組合（富士市大淵）での製材、マルダイ（同）でのプレカット工程を見学。「富士山『桧輝』」の消費促進と認知度向上を図るため、学習机などの商品も生産・販売することも紹介された。

同委員会事務局では「木材を扱う業者として治山や環境への貢献に社会的な責任もある。事業内容を発信し、多くの人に理解を広めたい」と話している。

同委員会加盟の工務店などでは「きこりツアー」を計画している。学習机の販売も合わせ、問い合わせは同委員会（☎3535・マルダイ内）。

日本製紙北山社有林を見学する参加者（提供）